

# OPINION



愛知淑徳大学  
ビジネス学部講師

森 洵太氏



企業が公表する財務諸表を作成するルールである会計基準は、経済社会に極めて大きなインパクトを持っている。なぜなら、会計基準が変わること、利益数値が変わる。利益が変われば、投資家への

配当額や国・自治体への納税額の変動、さらには従業員の給与・賞与水準も変動するからである。近年、IFRS(国際財務報告基準)が世界的に影響を増している。日本でも既に任意適用している上場企業が

## 会計基準のつくりかた

SB(国際会計基準審議会)の議論をもつて法律となる。SB(国際会計基準審議会)の議論をもつて法律となる。SB(国際会計基準審議会)の議論をもつて法律となる。SB(国際会計基準審議会)の議論をもつて法律となる。

## 内容プラス策定過程が重要

に分けられる。まず、①スタッフによる調査活動が行われ、現行の会計実務で問題となっている点を洗い出し、会計基準の新設・変更が必要かどうかを絞り込んでいく。そして、論点が定まると、②ディスカッション・ペーパーを公表し、世界中からコメントを募集する。特定した論点が、会計基準として新たに必要かどうか。

策定される。しかし、それを承認して「おしまい」とはならない。④出来上がった案を公開草案として公表し、また世界中からコメントを募集する。そのうえで必要ならば寄せられたコメントに基づいて修正が行われ、⑤会計基準が正式に決定される。とはいえ、デュー・プロセスはこれで終わらない。⑥通常は2年後をめどに適用後レビューが実施される。本来の意図通り会計基準が機能しているか、チェックが行われる。

た会計基準を世界中で使用してもらったためには各国規制当局に受け入れてもらう必要があるからだ。そのためにIASBはデュー・プロセスに則って、何度も関係者の意見を聴く機会を設け、できる限り多くの関係者が納得のいく形で会計基準を受け入れてもらう仕組みを制度化している。近年では、会計基準に限らずISOなど国際団体が作るルールに世界中が従っていく枠組みがしばしば見受けられるようになった。多くの人が影響を受けるだけに、国際ルールはその内容だけでなく策定過程についても注視する必要がある。